

TOPIX

ふかや花園プレミアム・アウトレット

—— 地域との共生を軸に、新たな情報発信・観光拠点への期待

10.20
GRAND
OPEN



去る10月20日、深谷市内に「ふかや花園プレミアム・アウトレット」が開業した。運営する三菱地所・サイモン株式会社（本社：東京都千代田区）にとっては、2013年開業の千葉県の酒々井プレミアム・アウトレット以来、約10年ぶり10か所目の新たなプレミアム・アウトレットで、埼玉県内では初めての開業となる。開業地となる深谷市を始め、埼玉県北部の住民にとって、これまでアウトレットと言えば、長野県軽井沢町の「プリンスアウトレット」だけだっただけに、深谷市だけでなく近隣自治体、秩父地方や群馬県民も注目し、開業を待ちわびていたことに間違いはない。

同社は「ふかや花園プレミアム・アウトレット」の特徴として、以下の項目を挙げている。

- ①ハイエンドブランドを中心に多彩な約130店舗が登場
- ②飲食・食物販店舗が充実の40店舗。地元グルメや唯一無二の個性豊かなラインナップ
- ③ショッピングの合間に楽しめる、アート散策やアトラクションエリア
- ④ペットフレンドリーな環境、スーパー、カフェなど、デイリーユースな過ごし方も
- ⑤地元の魅力と連携、施設デザインも一新した「地域との共生」
- ⑥サステナブルな取り組み～施設全体のすべての電力を再生可能エネルギーへ



（出典：三菱地所・サイモン株式会社のプレスリリース資料より）

さらにアクセスについても、電車では秩父鉄道「ふかや花園駅」（徒歩3分）が既に開業しており、車では関越自動車道「花園IC」が1.5kmの場所にある。このように鉄道駅と高速道路のインターチェ





360度の動画を自由に操作できるVRコンテンツ

ンジが揃って近くにあるアウトレットは、国内ではめずらしい。

地元の魅力と連携し、地域との共生を前面に

アウトレットと隣接するかたちで、「深谷テラスパーク」やキューピー株式会社による地元野菜の魅力を体験できる複合型施設「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」が5月にオープンしており、これにふかや花園プレミアム・アウトレットが加わり、地域の魅力などの発信拠点として、また観光拠点として期待が高まる。

深谷テラスパークは、深谷市の農業と観光の振興を展開する施設で、管理棟には深谷市の情報と、観光連携の協定を結んでいる県北や秩父地域の市町村の情報を楽しめる多様なコンテンツが用意されている。なかでも360度の動画を自由に操って深谷市の農業や観光地を体験できるVRコンテンツは楽しい。イベント広場や水遊び場、深谷の野菜や花をモチーフにした大型遊具などもある。

一方で、「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」は「食べる」「見る」「触れる」等の体験を通じて、野菜を学び、美味しさを体験できる。「野菜教室」や「体験農園」で野菜を知り、併設のレストランでは地元野菜を使った料理を堪能できる。



「あそぼ！ガリガリ君」外観イメージ

日本初の「ガリガリ君」アトラクションエリア誕生

深谷市内に本社を置く赤城乳業株式会社の全国ブランド商品と言えば、氷菓「ガリガリ君」である。この「ガリガリ君」をモチーフにした日本初のアトラクションエリアが誕生した。ガリガリ君の巨大な顔にお出迎えされ、屋内外のアトラクションや乗り物を楽しめる。またアイスやステーションナリー等の販売スペースもある。

深谷、そして県北地域を新たな“デスティネーション”とさせる期待を込めて

深谷市はもちろんのこと、埼玉県北部はこれまで関越や上越方面への観光の通過点でしかなかった。今回のアウトレットモール開業を大きなトリガーとして、また県北・秩父地域との広域連携によって、新たな観光のデスティネーションと広く認識されていくことが期待される。それがこのプロジェクトの成功のポイントとなるだろう。加えて深谷市では、600万人とも予想されているアウトレットモールへの来場者を街へ回遊させることが大きな挑戦となる。

■ふかや花園プレミアム・アウトレット 概要

所在地	埼玉県深谷市黒田 169
敷地面積	約 176,800 m ²
店舗面積	約 27,500 m ²
店舗数	約 130 店舗
アクセス	電車：秩父鉄道「ふかや花園駅」より徒歩 3 分 車：関越自動車道「花園 IC」より約 1.5 km
https://www.premiumoutlets.co.jp/fukayahanazono/	

「花園インターチェンジ拠点整備プロジェクト」完成・開業 記念インタビュー

～ アウトレットは手段、目的は地域の農業と観光の振興 ～

「自治体経営の肝は商売なり」

深谷市長 小島 進氏



—— 花園インターチェンジ拠点整備プロジェクトの完成が目前となり、現在の率直なご感想をお聞かせください。

非常にうれしいですし、ワクワクしています。地権者を始め、様々なステークホルダーの方々が、ぶれずに最後まで深谷市を信じてご協力をいただいたことに感謝しています。振り返ると、ここ10年、市議会において「花園インターチェンジ拠点整備プロジェクト」(以下、整備プロジェクト)の関連議案が無い年はありませんでした。よくぞここまで来ることができたという気持ちと、これからが大事だという、新たな決意でいます。

—— 整備プロジェクトの狙いは、深谷市だけでなく埼玉県北部や秩父地域の活性化を目指しているんですね。

そうです。これまで関越自動車道の花園インターチェンジや、埼玉県北部は「通過地帯」で、目的地にはなり得なかった部分があります。何とか、深谷を目的地にしたかったのです。花園インターチェンジで降りてもらいたい。埼玉県北部を魅力あるものにしていこう。そのためにはアウトレットだけでなく、特に埼玉県の有力な観光資源である秩父地域との連携を始め近隣自治体とも連携し、協議会を立ち上げ進めて来ました。

—— 整備プロジェクトの中心となるアウトレットですが、その特徴をお教えてください。

ひとつはアウトレットと、地場産野菜について様々なカタチで情報発信できる施設が併設されているところです。また鉄道駅に直結し、高速道路のインターチェンジから約1.5キロという電車でも車でもアクセスが良いアウトレットは全国でも滅多にありません。そして広域連携です。先ほどお話しした秩父地域を含めた観光による広域な地域活性化を念頭に置いて、仕掛けづくりをしているところです。

—— アウトレット等への来訪者を街なかへ回遊させることができるでしょうか。

大きなチャレンジとなります。2024年の渋沢栄一の肖像画の新札が発行されることを考え、渋沢栄一の関連施設のリフォームや、「レンガのまち深谷」の特徴を出していこうとレンガ造りの新庁舎やレンガの道などを整備して、市の特徴を前面に出していこうとしています。

加えて深谷テラスパークの中でデジタルサイネージを使って深谷の魅力発信をしていきます。深谷の魅力を楽しく紹介する仕掛けづくりが街なか回遊につながるよう期待するところです。

—— もう一つの目玉、「深谷テラスパーク」と「ヤサイな仲間たちファーム」についてお聞きしたいと思います。

「深谷テラスパーク」は深谷市や県北、秩父地域の様々な情報を発信する場所です。主役は野菜ですが、そこから深谷市出身の偉人である渋沢栄一や畠山重忠に繋がっていけばよいと考えています。

また「ヤサイな仲間たちファーム」は、地場産野菜を中心に食を楽しんでもらう「野菜のテーマパーク」と言えると思います。

—— 地元企業や市民が、関連事業により多く関わりが持てるような施策などについてお聞きします。

アウトレット建設工事関連を始め、出店希望など地元企業から様々な要望が寄せられました。市の担当部署には地元企業からの要望は全て門戸を開いてつなぐように指示し、多くのビジネスマッチングにつなげました。新規雇用については市内外で求人説明会を実施し、積極的に地元の人たちを採用するように進めています。

—— 整備プロジェクトを通して深谷市が目指すものは何ですか？

全国的にも珍しいアウトレットと地場産野菜のテーマパークを併設する拠点整備は、手段であり集客装置に過ぎないと考えています。目的は地域農業と観光の振興です。そこから交流人口、関係人口そして定住人口を増やす方向に進め、税収を増やすことです。自治体経営の肝は商売と共通していると思います。

—— 最後に一言、お願いします。

市民(特に子供たち)が、自分の地域を誇れるようにしたいですね。また外からは、深谷はいつも動いている、面白そうな街だと思ってもらえるようにしたいです。アウトレットは、そのひとつのきっかけになることを期待しています。これからも市民が夢をもっといただけるように、いろいろと挑戦していきます。

「花園インターチェンジ拠点整備プロジェクト」完成・開業 記念インタビュー

10月20日、関越道沿線を商圏とする大型商業施設「ふかや花園プレミアム・アウトレット」がオープンした。そこで、施設の運営会社で新アウトレットモールの支配人を務める三菱地所・サイモン株式会社の相本泰裕氏に話を伺った。

——ふかや花園プレミアム・アウトレットの魅力について教えてください。

新施設は自然豊かな深谷市と、埼玉県北西部の魅力と連携する“地域との共生”をキーワードにしています。プレミアム・アウトレットの魅力である“ワクワク感”に満ちた買い物が思い出になるショッピング体験をはじめ、さまざまなニーズを持つお客様が楽しめるアウトレットモールにしたいと考えています。テナントはハイエンドブランドを中心に約130店舗が出店します。飲食店舗と食品販売店舗が40店舗あり、全店舗に占める飲食店舗と食品販売店舗の比率が30%と高いのが特徴です。

プレミアム・アウトレットは元々、米国発祥の施設のため、米国の都市や街を模したデザインで作られています。対して『ふかや花園』は従来のデザインと全く異なり、地域との共生をコンセプトに深谷の風景をイメージしています。施設の雰囲気が大きく異なり、植栽も多く、緑が多いのが特徴です。箱根 彫刻の森美術館のアート作品の展示や、10人のアーティストが手掛けるプロジェクションマッピングなど芸術的要素を採り入れている点も他のプレミアム・アウトレットと異なります。

——「深谷」を選ばれた理由と「商圏」について教えてください。

当社は関東近郊に4カ所のプレミアム・アウトレットを展開しています。東名高速道路沿線の『御殿場』、東北自動車道沿線の『佐野』、圏央道沿線の『あみ』、東関東自動車道沿線の『酒々井』です。今回、深谷市を選んだ理由は、深谷市の戦略、関越道の花園インターチェンジからの距離等の立地条件が当社の考えと合致しました。

また、深谷市の魅力に加えて、『深谷テラスパーク』や『深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム』といった施設が隣接していることも重要です。

商圏は関越道沿線を中心とした広域です。深谷市および熊谷市を含む埼玉県北西部を中心とした埼玉県全域、並びに関越道沿線の群馬県前橋市、高崎市周辺を重点商圏としています。東京からも高速バスを走らせるなどして集客を図ります。プレミアム・アウトレットが関東エリアを取巻



ふかや花園プレミアム・アウトレット
支配人 相本 泰裕氏

くように点在し、これによりお客様の選択肢がさらに広がると考えます。

——秩父鉄道「ふかや花園」の駅前という好立地にあります。車に加えて鉄道による来客も期待できます。

駅からの徒歩圏では、大阪の『りんくうプレミアム・アウトレット』がありますが、ふかや花園駅から目視でき、プレミアム・アウトレットの中では最も駅に近く、駅前と言えます。車による来場をメインに考えていますが、秩父鉄道の沿線では寄居駅に東武東上線、熊谷駅にはJR各線が乗り入れており、アクセスのしやすさから、関東各地からの集客が望めると考えています。

従来、アウトレットは車による来場が基本で公共交通といってもほとんどバスに乗らなければならなかった。対して『ふかや花園』は電車に乗って、駅を降りたらアウトレットがある。鉄道の駅前にあることで、さらに広い層のお客様が来られるのではないかと考えています。

——アウトレットモールの魅力について教えてください。

アウトレットはブランド品がお得な価格で手に入る「宝探し」のような楽しいショッピングができるという本質的な魅力は昔から変わりません。国内外のブランド品をオープンモールという開放的な空間で街を散策するようにショッピングして頂く点はEC（電子商取引）サイトにはない大きな魅力です。

一方で、顧客ニーズは時代の変化による進化もあり、御殿場や酒々井ではヘリコプター遊覧体験、りんくうではグランピングなど、施設の立地や特徴を活かした体験価値の向上に努めています。新型コロナウイルスの影響はありましたが業績は堅調に推移しています。その点からアウトレットでのリアルショッピングや体験価値は、買い物だけでなく、1日を満喫できるお出かけ先として、消費者ニーズとマッチしていると考えています。